



Minami Wakayama
Medical Center

Vol.57

南 輝

なんき

独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センターだより



題名：あの街へ 撮影者：診療放射線技師 芝田 裕太
「写真家の間では有名な三重県四日市市のいなばポートラインの夜景です。」

基本理念 思いやりのある医療を実践します。

あなたの権利を尊重し
あなたを中心とした
あなたに適した医療を提供します

1. プライバシーの尊重を実践します。
2. 親切・丁寧なケアを実践します。
3. わかりやすい説明と納得による診断治療を実践します。
4. 地域医療機関との連携強化を図ります。
5. 自ら研鑽に努め、良質な医療の提供に役立ちます。



Minami Wakayama
Medical Center

南和歌山医療センターの基本理念である
『思いやりのある医療を実践します』に基づき、

1. 明るく (A)
2. 挨拶があり (A)
3. 愛のある (A)
4. アカウンタビリティ (納得説明義務) (A)

の4つの頭文字のAを基本デザインとしています。

これは丸みをおびた形でやさしさを表現し、4つの理念が集まることで、空 (明るい未来) に向かって羽ばたく鳥を表しています。4つのカラーは黄色が明るさ、赤が愛、青と緑は南和歌山の自然の象徴である綺麗な海と、山を表現し、南和歌山医療センターの環境の良さもアピールしています。

受診者の皆様の義務

- 南和歌山医療センターは受診者の皆様と病院の双方がお互いに尊敬し、協力し合うことが安全かつ良質な医療の提供につながるものと考えます。
受診者の皆様には以下の事項に合意し、守っていただく必要があります。
1. 安全かつ最善の診療のためにご自身の身体や必要事項に関する情報を、私たち職員に正確に伝えていただくこと
 2. 検査・治療は説明を受け、納得・合意の上で受けていただくこと
 3. 当院は近隣の医療機関と連携して専門性の高い医療を提供する急性期病院である。救命救急、がんに対する医療と緩和ケアを提供する病院の役割をご理解の上、診療体制維持に協力いただくこと
 4. 病院内では静粛を保ち、院内のルールに従っていただき、他の来院者や入院中の方に迷惑をかけることのないよう配慮していただくこと
 5. 病院内ではお互いに礼儀正しく思いやりのある態度で接していただくこと
 6. 医療費の支払い請求を受けたときは遅滞なくお支払いいただくこと

受診者の皆様の権利

- 患者としてあなたには
1. 良質で公平な医療を受けられる権利があります。
 2. 人格や価値観を尊重される権利があります。
 3. 個人情報を守られる権利があります。
 4. 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
 5. 治療法を選択できる権利があります。
 6. 治療法について、第三者の意見を聞くことが出来る権利があります。
 7. 貴方の診療記録の開示を求める権利があります。

診療科紹介

「外科 小児外科」

外科医長 **渡 邊 高 士**



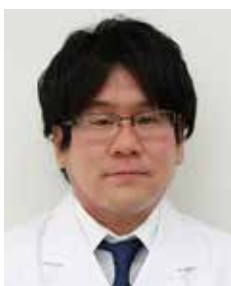
南和歌山医療センターの外科は紀南地域における診療のご要望にお応えするため、日本外科学会、日本消化器外科学会の専門医、指導医が消化器疾患に対する最適な治療を提供できるよう努めております。しかし、小児外科に関しましては紀南地域に小児外科専門医は不在で、和歌山県全体で小児外科専門医は4名、全員が和歌山市内の病院に勤務しており、今まで小児外科症例は和歌山市内まで受診するというご不便をおかけしておりました。私自身も兵庫こども病院、大阪母子センターでの勤務の後、和歌山県立医大で長く小児外科診療に携わってききましたが、

昨年10月に南和歌山医療センターに赴任し、新しい職場にもなれ、小児外科診療を行う体制も徐々に整ってまいりました。まずは日常診療でよく目にする、陰嚢水腫、鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、肛門周囲膿瘍などから診療を開始したいと考えております。「こどもを安心して預けることができる外科医」を心がけて、紀南地域の小児外科医療に貢献できるよう努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

新任医師紹介

どうぞよろしくお願ひ致します。

呼吸器内科 **古田 勝之** (ふるた かつゆき)



2021年1月より南和歌山医療センター呼吸器内科に赴任することとなりました古田勝之と申します。赴任前には和歌山県立医科大学附属病院や橋本市民病院での勤務歴があります。肺炎などの急性期疾患から肺癌や気管支喘息など慢性期疾患まで幅広く診療しています。現在呼吸器診療は日進月歩で進歩しています。皆様に最もよい治療を提供し、紀南地域の呼吸器診療の一助となれるよう尽力いたしますので、皆様のお力添えをいただくと幸いです。これからどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

COVID-19JMATとして札幌保健所を支援して

救命救急科・災害医療対策室長 島 幸宏

昨年の秋から冬にかけて北海道ではCOVID-19の感染者数が増え、札幌市や旭川市の一般病院・老人施設で医療者・患者の間で感染する「クラスター」が発生するようになりました。その対応を札幌市保健所で支援する機会がありましたのでご報告します。

保健所では一般病院・老人施設（以下、病院・施設）で複数発生した職員・患者（入居者）の陽性者・濃厚接触者（陽性者と接触した人）にどのように対応するかを指導しており、その支援をしました。札幌市では陽性者が多すぎたため、あらかじめ指定されていた感染症指定病院だけではすぐに全員を入院させることができず、無症状から中等症までの陽性者は発生した病院・施設での療養も行わざるを得ない状況でした。

病院・施設では部屋単位あるいは病棟（フロア）全体を濃厚接触者・陽性者のエリアとして、どのような服装で、職員何人くらいで対応するのが適切かのアドバイスを行いました。食器や寝具・洗濯・掃除・ゴミの対応など、実際に発生して明らかになる細やかな困りごとまで対応をしました。

印象に残ったのは、クラスターが発生した老人施設職員に支援に来ていたDMAT事務局の医師が説明していた内容でした。「クラスターが発生したのは誰かが悪いのでしょうか？ 私たちDMATが来ているということは被災したようなものです。防護服を着ても感染を100%防げるわけではなく、確率を下げているだけです。クラスターは不幸にして発生した天災のようなものです。皆さんは頑張ってください（コロナ対策をして）います。私たちはそのサポートに来ているのです。」という説明でした。私もその通りだと思いました。クラスターが多発している北海道では感染をゼロにすることはできない状況でした。災害時に「防ぎ得た災害死をなくす」と同じように「通常の対応なら救命できた患者さんがコロナ対応のために救命できない」ということが無いように、「防ぎ得たコロナ死をなくす」ことを目標にするのが妥当であると思いました。今後、和歌山でも起こりうる（起こって欲しくありませんが）医療機関・老人施設でのクラスター発生時にこの経験が生かせるようにしたいと思います。





感染症対策実施医療機関

当院は新型コロナウイルス感染症対策
チェックリストに沿った対策を実施しております。

院内における新型コロナウイルス 感染症対策チェックリスト

- 職員に対して、サージカルマスクの着用、手指衛生を適切に実施しています。
- 職員に対して、毎日(朝、夕)の検温等の健康管理を適切に実施しています。
- 職員が身体の不調を訴えた場合に適切な対応を講じています。
- 患者、取引業者等に対して、マスクの着用、手指衛生の適切な実施を指導しています。
- 発熱患者への対応として、事前に電話での受診相談を行う、または対応できる医療機関へ紹介する等の対策を講じています。また、発熱患者を診察する場合には、時間的または空間的に動線を分けるなどの対策を講じています。
- 受付における感染予防策(遮蔽物の設置等)を講じています。
- 患者間が一定の距離が保てるよう必要な措置を講じています。
- 共用部分、共有物等の消毒、換気等を適時、適切に実施しています。
- マスク等を廃棄する際の適切な方法を講じています。

編集後記

コロナウイルスの影響で生活様式が変わり、いつもより気持ちが沈みがちになる方もいたのではないのでしょうか。現在の生活様式の中でも楽しくリラックスできる時間を確保できないかと、私は音楽を聴くことやストレッチを行うで気分転換を図っています。自分に合った家での過ごし方を見つけることで生活や気持ちを豊かにできればと思います。

公認心理師 濱 仲 直 子